

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800195		
法人名	社会福祉法人 親孝会		
事業所名	グループホーム太陽の郷		
所在地	〒820-0001 飯塚市鯉田516-17		
自己評価作成日	平成23年2月17日	評価結果確定日	平成23年5月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年5月で開設2周年を迎えます。社会福祉法人・親孝会は平成6年4月～飯塚市下緒に特別養護老人ホームをはじめとし、ショートステイ、介護付ケアハウス、デイサービス、居宅支援事業所を運営しており、新たに平成21年5月より飯塚市鯉田で介護付き有料老人ホーム&グループホームの運営を開始しました。施設スタッフのみならず、法人全体で利用者の方(家族)を支える体制を整えています。地域との繋がりを重視し、利用者個人個人のニーズに合わせた介護を実践しています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階
訪問調査日	平成23年3月2日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設される地域密着型特定施設とともに、建物全体が回廊式となっており、中心に位置するゆとりある広さの中庭では、菜園活動が活発に行われ、気軽な外気浴の場所としても活用されている。併設事業所との連携や、法人全体のスケールメリット、蓄積されたノウハウを活かし、本人、家族にとって安心できる生活環境の提供に努めている。また、個別の地域性という視点を持ちながら、それぞれの方にとっての地元行事への参加を支援する等、これまでの暮らしの継続につながる個別処遇にも力を入れている。開設して2年が経過し、地域密着型サービス事業所としての課題を明確に捉えながら、入居者本位のサービス向上、質の確保に取り組みとする真摯な姿勢は、自らに厳しい自己評価の内容からも伝わってくる。今後は、情報発信に更に積極的に取り組み、地域の介護相談所としての機能を果たすべく取り組む意向もあり、入居者それぞれの方々の思いに寄り添いながら、地域の福祉拠点としての活動の展開が期待される事業所である。法人として、ISO14001を取得している。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まだ理念が浸透していない。共有する為に今一度見直し・再構築が必要である。	書道の得意な入居者により毛筆書きされた理念が、リビングに掲示されている。理念、職員心得ともに、地域の中での暮らしについて視点を持っており、現在、更なる共有を図るための方策を検討している。	管理者は理念を大切に捉え、更なる共有、実践に向けて取り組む意向がある。理念の具現化、ケアへの反映について話し合いを行ったり、職員個々の主体性を育む取り組みが、理念の実践へとつながることを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設して2年弱であるのと他施設との単純な比較が難しいが、まだまだ交流は十分ではない。大きな行事には積極的に出向いている。	入居者個々の出身地域の行事へ参加している。また、近隣の商店や理・美容の利用、小・中学校の子供たちとの交流や、高校生の実習の受け入れを行っている。施設として地域の「長さん会議（地域の各長が集まる会）」に出席し、情報共有等の連携を図っている。地域からのよろず相談を受けることが出来るよう、積極的な情報発信に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(2)と同じくまだ十分ではない。施設から積極的にアプローチしていく必要があると考える。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見を取り入れる努力は出来ている。が、参加者がやや固定化しており改善の余地がある。	運営推進会議では、ホームから事業報告や事故報告を行い、参加者からの助言を運営に反映するよう取り組んでいる。看取りについて振り返りの機会や事業所としての方針を共有する機会として、話し合いが行われている。地域情報を収集する場所としても活用に努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1度の介護相談員の指導も受けている。随時連絡は実施している。	介護保険や入居者の暮らしに必要な制度、運営に関すること等について、行政各担当者への連絡を行い、助言を得ている。毎月、介護相談員の訪問がある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての職員研修等行い、取り組みは出来ている。	日中、玄関の施錠は行われておらず、中庭への出入りについても、特別な制限は行われていない。薬による抑制についても、医師との密な連携を図りながら、意識を持った支援を行っている。車椅子からの移乗が、その都度丁寧に行われていた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修等行い取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修等行い取り組んでいる。が一部内容が難しいので今後も実施していく。	権利擁護に関する制度については、資料を整備し、入居契約時に説明を行っている。内部研修を実施し、運営推進会議の中でも説明が行われている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な理解・納得が図れるよう取り組んでいる。利用者本人への説明を更に強化する必要がある。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会は設けており反映させるよう取り組んでいるが、更に取り入れる努力が必要である。	家族が意見を言い難いことを理解し、日常的に意見や要望の収集に努めるとともに、第三者委員を設置し、家族へ案内している。出された意見や要望は、職員間で周知、検討が行われ、運営に反映するよう努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度、全体職員会議・リーダー会議等を設け、反映できるよう取り組んでいる。	毎月の職員会議やリーダー会議において、Q&A方式を用いて活発な意見交換が行われており、意見や提案を収集し、運営への反映に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めているが、更にモチベーションを維持出来るよう努めていきたい。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	配慮している。	主としてハローワークを活用して求人を行っており、年齢や性別による制限は行わないようにしている。個々の職歴(美容師・スポーツインストラクター等)や趣味(茶道・野球観戦等)を活かし、能力やバイタリティーを発揮してもらっている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	努めている。更に取り組んでいく予定である。	権利擁護や倫理についての研修を行い、また、運営推進会議でも取り上げながら、入居者の人権尊重や啓発に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修は適宜・随時実施しています。まだ改善の余地あり。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内では交流はあるが、他施設との交流はほとんどない為、今後の課題である。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。更に取り組んでいく予定。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。更に取り組んでいく予定。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。更に取り組んでいく予定。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員研修等を開催し、意識改革に努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築けるよう努力している。今後更に取り入れる取り組みが必要と考える。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出行事や地域交流に力を入れてやっているが今後特に力を入れて取り組んでいきたい課題の一つである。	周辺の地域情報を収集し、入居者それぞれの出身地域の行事へ参加するようにしている。今年初の詣は、それぞれの方の地元へ出掛ける等、個別の地域性を大切にした支援が行われている。	

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。更に取り組んでいく予定。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事にお誘いする・お手紙や写真を送る等、努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努め、検討してるすが今後もっと取り組んでいかなければならない課題である。	センター方式を一部活用しながら、アセスメントを行っている。また、職員会議等において、それぞれの方の意向を叶えるための話し合いが行われている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の歴史を尊重する関わりを重視して取り組んでいる。今後更に努めていく。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。日常記録や計画に更に取り組んでいく予定である。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適切に介護計画を作成している。今後利用者本人の意向をもっと反映させるよう取り組んでる。	各担当職員も関わりながら、介護計画が作成されている。定期的にモニタリングを実施し、現状に即した介護計画作成に努めている。	介護計画は、介護者としての視点が主体となっている印象を受ける。現在取り組んでいる個別の地域性への支援や、本人、家族の役割、楽しみごと等を具体的に示していくことにより、共有や評価が行いやすいと思います。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は現在強化目標で取り組んでいる。全員のスキルアップに取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内で可能な限りの協力体制を敷いている。今後更に強化して取り組みたい。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徐々に地域資源を活用出来始めているので今後一層取り組んでいきたい。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本提携病院に転医してもらっているが、要望に合わせ対応している。	入居契約時に、かかりつけ医について確認している。個別の状況に対応しながら、これまでのかかりつけ医とも連携を図り、適切な医療活用となるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の指導を受けながら記録報告能力の向上に努めていて更に努力している課題である。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院を中心に出来ている。更に緊密に連携に取り組んでいる。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1名看取りを経験した事で職員の意識に変化が出てきている。今後意識の更なる向上が必要である。	昨年看取りを行った経緯があり、職員会議や運営推進会議、内部研修等にて、振り返りと意見交換の機会を持っている。重度化や終末期に向けた指針を整備し、状況の変化に応じて、関係者間で方針を共有している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修等取り組んでいるが完全ではないので今後繰り返し実施していく必要がある。		

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員研修等取り組んでいるが完全ではないので今後繰り返し実施していく必要がある。	年2回、避難訓練を実施しており、内1回は消防の協力のもと行われている。災害対策や避難方法に関する研修や、水害時の土嚢の準備等が行われている。地域の「長さん会議」を通じて、地域の避難場所として位置付けられている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応は概ね出来ている。	研修計画の中に組み入れながら、職員の学ぶ機会の確保と共通認識を図っている。特に排泄ケアの際の声かけや対応については、羞恥心や自尊心へ配慮した支援となるよう心掛けている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけているが、まだまだ組み取れていないのでより一層取り組まなければならない。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	働きかけているが、まだまだ組み取れていないのでより一層取り組まなければならない。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るよう努めている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るよう努めている。まだ向上の余地がある。	法人厨房での調理となるが、毎月、ホームでの調理の日(みんなでご飯をつくらう会)を設けたり、箸や湯のみは個別のものを使用したり、また、中庭にある菜園では野菜の生育や収穫を楽しみながら、切干大根を作ったりと、「食」を楽しむ為の工夫がある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	積極的に努めている。		

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ている。	排泄チェック表にて個別の状況やパターンの把握に努め、日中はさりげない声かけやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の指示をもとに取り組んでいる。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	まだ出来ていない。今後の課題である。	併設施設との共用の為、週3回、午後の時間で入浴日を設定している。リフト浴が行えるよう設備された浴室はゆとりある広さがあり、大きく窓が設けられている。入浴時のサービス向上について、会議の中で話し合いが行われている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援出来ている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援の努力はしているが、まだまだ向上工夫の余地はある。		



福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>努めている。更に強化していく。</p>	<p>周辺の散策やドライブ、買い物等を支援している。入居者個々の地元行事への参加や馴染みの場所への外出、趣味に応じた少人数での外出等、個別の外出への視点を持ちながら支援に努めている。広い中庭には菜園もあり、気軽に外気浴が行える。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>あまり出来ていない。施設管理が中心となっている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>必要に応じて適宜対応している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>試行錯誤しながら適宜対応している。今後より一層改善していくよう努力している。</p>	<p>ゆとりある広さを持つ中庭を中心として、併設される地域密着型特定施設と回廊式でつながっている。中庭の菜園の生育状況を眺めたり、ウッドデッキでは気軽な外気浴も行うことが出来る。室温管理や換気にも十分に配慮され、清潔感ある共用空間となっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>している。さらに個々に合った工夫をしていく。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>お好みに合わせご自由にセレクトして頂いている。</p>	<p>各居室には洗面台が備え付けられており、開口部が大きくとられ明るい。筆筒やテーブルセット、冷蔵庫等が持ち込まれており、生活感ある居室となっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>工夫している。出来るだけ本人の趣向を重視している。</p>		